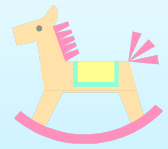


保育実践を考える



国際交流会（学生主催）

海外の保育研究の動向を交えて

本企画では、世界を代表するオーストラリア・アメリカ・イギリス・ベルギーの乳幼児教育学研究者に本学の保育関連施設への見学を含む日本の保育実践を紹介し、議論するなどの、交流を深め、日本の保育について考え、海外の乳幼児教育学研究の動向を伺ったりします。

海外の研究者の紹介

Michel Vandebroek 博士：ヘント大学（ベルギー） 子育て支援施設、福祉・保育専門職の研究を行っている。ヨーロッパを代表する乳幼児教育・保育学研究者

Wendy Schiller 博士：南オーストラリア大学 保育実践、特に芸術・動作・ダンス教育、子どもの視点に基づく保育の創造についての研究を行っている。ワークショップ等が世界的にも著名。

John Schiller 博士：ニューキャッスル大学（オーストラリア） 教育経営学、教育におけるICTの活用に関する研究を行っている。

Peter Elfer 博士：ローハンプトン大学（イギリス） 3歳未満児保育のウェルビーイングについて研究しており、現在のイギリスのナショナルカリキュラム EYFS の0ー3歳の部分の策定に携わった。

Soyoun Bae-Suh 博士：ローワン大学（アメリカ）教授、ニュージャージー州の幼稚園教諭小学校教諭（3年生まで）養成教育のガイドラインの策定に寄与。

古屋博子博士：元幼稚園教諭、元ローハンプトン大学教授。専門は幼児心理学。

8月3日（水）

あーち→神戸大学発達科学部にて

14:00～15:00 施設見学

15:30～17:00 保育実践検討会

～海外研究者による講評

17:00～18:00 保育実践についての意見交換会



参加希望・質問は sachikita@panda.kobe-u.ac.jp まで

企画・運営：神戸大学大学院人間発達環境学研究科

神戸大学発達科学部 乳幼児教育・保育学研究室

共催：学術 WEEKS2011